



Chapter 9

〔第九章〕

情報ボックス



用語集

【あ行】

悪性腫瘍（あくせいしゅよう）

異常な細胞が広がり、臓器や生命に重大な影響を与えるものをいいます。身体や臓器の表面などからできる「癌」と、骨や筋肉などからできる「肉腫」血管や骨髄、リンパ節の中に出来る「造血器腫瘍」に分類されます。

アピアランス

「外観や人の容貌」を意味する言葉です。脱毛（頭髪、まつ毛、まゆ毛等）、皮膚や爪の変色など、治療によって起こる外見の変化による患者の悩みを支援することを「アピアランスケア」と呼びます。

異形成（いけいせい）

細胞が「現状ではがんとは言えないががんに進行する確率が高い状態（前がん病変）」や「悪性・良性の境界にある状態（境界悪性）」であることを指します。

インフォームドコンセント

医療行為を受ける前に、医師および看護師から医療行為について、十分な説明を受け、疑問があれば解消し十分納得した上で、その医療行為に同意することです。

エビデンス

多くの人を対象に、治療方法や検査方法などの有効性や安全性を調べた臨床研究の結果から得られた信頼性の高い証拠のことです。

【か行】

寛解（かんかい）

治療によって一時的、または永続的に症状が軽快したり、消失したりした状態のことです。

患者サロン（かんじゃさろん）

患者や家族などが、がんのことを気軽に語り合う交流の場のことで、医療機関や地域の集会場などで開かれています。

患者申出療養（かんじゃもうしでりょうよう）

承認されていない治療法を、患者さんの申し出により臨床試験として実施する制度です。一定の安全性と有効性が確認された国内の未承認・適応外の治療法に限られます。申し出をしても必ず実施できるとは限りません。

緩和ケア（かんわけあ）

緩和ケアとは、がんの患者さんの体や心のつらさを和らげ、生活やその人らしさを大切にする考え方です。

胸水（きょうすい）

胸腔内（肺と胸壁と横隔膜に囲まれた空間）に認める液体のことです。がんなどの疾患で多量にたまると、息苦しさなどがあらわれることがあります。

局所再発（きょくしょさいはつ）

最初のがんと同じ場所、あるいはごく近くにがんが再発することをいいます。

局所療法（きょくしりょうほう）

がんができている部位とその周辺に対して行われる治療のことです。手術（外科治療）、放射線治療などがあります。

クオリティ・オブ・ライフ（QOL）

治療や療養生活を送る患者の身体的、精神的、社会的、経済的状況など、すべてを含めた生活の質や生きる上での満足度（快適さ）をあらわす主観的な考え方です。

原発巣（げんぱつそう）

最初のがんが発生した病変のことです。原発巣が小さい、あるいは発見しにくい場所にある場合には、特定できないこともあります。

根治手術（こんちしゅじゅつ）

がんをすべて取り除き、病気を完全に治すことを期待して行う手術のことです。

【さ行】 再燃（さいねん）

病気の進行が、一時的または長い期間止まっていたり、軽快していたりしたものが、再び進行し始めることです。完全には治っていなかったものが再び表に出てきた場合のことをいいます。

再発（さいはつ）

手術療法や薬物療法、放射線治療などの治療により、検査でがんがなくなったことを確認した後、再びがんが現れることです。別の場所に「転移」としてがんが見つかることも含めて再発といいます。

在宅医療（ざいたくいりょう）

病院ではなく、住み慣れた自宅などで病気の療養をすることをいいます。外来通院を続けている場合も含め、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションなどからなります。

診療ガイドライン（しんりょうがいどらいん）

エビデンス（科学的根拠）などに基づいて、最良と考えられる検査や治療法などを提示する文書のことです。

支持療法（しじりょうほう）

がんそのものに伴う症状や、治療による副作用・合併症・後遺症による症状を軽くするための予防、治療、およびケアのことです。

手術支援ロボット

患者の体に小さな穴を開け、内視鏡（カメラ）と手術用具を取り付けたロボットアームを体内に挿入し、医師が患部の立体映像を見ながら、アームを遠隔操作して行う手術をいいます。

腫瘍（しゅよう）

細胞が異常に増殖したものです。転移をしない良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）があります。

腫瘤（しゅりゅう）

こぶ、固まりのこと。腫瘍性のものや炎症性のものがあります。

紹介状（しょうかいじょう）：診療情報提供書

患者がほかの医療機関を受診するとき、それまで担当していた医師が患者を紹介するために発行する書類です。書類にはこれまでの症状や診断・治療などといった診療のまとめや、紹介の目的などが書かれています。

神経ブロック（しんけいぶろっく）

がんによる痛みを和らげるため、痛みのある部位に関連する神経の周りに局所麻酔薬や神経破壊薬を注入し、痛みを抑制または遮断する治療法のことをいいます。

進行がん（しんこうがん）

最初にできたがんが大きくなっている、リンパ節に転移している、他の臓器への転移があるなどの特徴をもった治りにくいがんです。

浸潤（しんじゅん）

がんが周囲に染み出るように広がっていくことです。

術後補助療法（じゅつごほじりょうほう）

手術後に、がんの再発や転移の危険性を減らす目的で行われる治療のことです。薬物療法や放射線治療などが行われます。

手段的日常生活動作（IADL）

交通機関や電話の利用、調理、買い物など、自立した在宅生活を営む上で必要となる一段複雑な動作を指します。

上皮内がん（じょうひないがん）

がん細胞が臓器の表面や管状の臓器の内側をおおっている上皮までにとどまっているがんです。

ストーマ

おなかに新しく作られた、便や尿の排泄口のこと、人工肛門や人工膀胱などがあり、排泄物をためる専用の袋をおなかに装着します。

生存率（せいぞんりつ）

生存率とは、ある病気（がん）の診断から一定期間後に生存している人の割合をいいます。5年生存率が最もよく用いられます。

先進医療（せんしんいりょう）

保険診療として認められていない医療技術の中で、保険診療とすべきかどうかの評価が必要であると厚生労働大臣が定めた治療法です。

奏効率（そうこうりつ）

薬物療法や放射線治療などの効果を示す指標の1つで、その治療を実施した後のがん細胞が縮小もしくは消滅した患者の割合を示します。

創部（そうぶ）

「傷のある部位」のことで、手術などによってできた傷の場所のことをいいます。

【た行】

対症療法（たいしょうりょうほう）

病気に伴う症状を和らげる、あるいは消すための治療です。がんによる痛みや治療による副作用の症状が強い場合などに、それぞれの症状に応じた治療が行われます。

ダンピング症候群（だんぴんぐしょうこうぐん）

胃の切除後の再建など、食べ物の流れを変えることにより、これまで胃の中を通っていた食べ物が直接腸に流れ込むために、めまい、動悸、発汗、頭痛、手指の震えなどのさまざまな不快な症状が起こることをいいます。

治験（ちけん）

「新薬の開発を目的」として、これまで患者さんに使われたことのない新しい薬、あるいはその病気では使われたことのない薬の安全性や有効性を調べるために行われる臨床試験のことです。

中心静脈カテーテル（ちゅうしんじょうみゃくかてーてる）

通常の点滴とは異なり、腕や首などにある静脈から、心臓に直接流れ込む太い静脈へと挿入する点滴用の管のことです。

治療効果判定（ちりょうこうかはんてい）

腫瘍の大きさを測れる固形がんではがんの大きさ、腫瘍の大きさが測れない血液のがんでは腫瘍細胞の数や血液細胞の状態などを基に判定されます。

TNM分類（ていーえぬえむぶんるい）

がんの進み具合を評価する方法です。Tは「がんの大きさや広がり」、Nは「リンパ節への転移と広がり」、Mは「離れた臓器に転移しているか」を評価します。

転移（てんい）

がん細胞が最初に発生した場所から、血管やリンパ管に入り込み、血液やリンパ液の流れに乗って別の臓器や器官に移動し、そこで増えることです。

頓服（とんぷく）

食後などの決まった時間ではなく、痛み（疼痛）、吐き気、発熱、不眠などの症状が出て必要になったときに薬を飲むことです。

【な行】

日常生活動作（ADL）

食事や着替え、トイレ、入浴といった、日常生活に最低限必要な動作や、それらを行えるかどうかの状態を指します。

【は行】

播種（はしゅ）

身体の中（腹部の空間や肋骨で囲まれた胸部の空間など）にがん細胞がこぼれ、種をまいたようにバラバラと広がることです。

晩期合併症（ばんきがっぺいしょう）

治療が終了して数カ月から数年後に、がんそのものからの影響や、薬物療法、放射線治療など治療の影響によって生じる合併症のことです。

パフォーマンスステータス（PS）

全身状態の指標の1つで、患者さんの日常生活の制限の程度を0～4の5段階で示します。

標準治療（ひょうじゅんちりょう）

科学的根拠（エビデンス）に基づいた観点で、現在利用できる「最良の治療」であることが示され、多くの患者さんに行われることが推奨される治療をいいます。

病期（びょうき）：ステージ

がんの大きさや周囲への広がり方で、がんの進行の程度を判定するための基準のことです。がんの治療方針を検討するときに使います。ステージともいいます。

腹腔鏡下手術（ふくくうきょうかしゅじゅつ）

炭酸ガスでおなかをふくらませてから腹壁（腹部の壁）に小さな穴をいくつか開け、そこから腹腔鏡や手術器具を挿入して、モニター画面上で腹腔（腹壁で囲まれた空間）の状態を見ながら手術を行います。

副作用（ふくさよう）

薬の作用の中で、治療に必要な効果以外の作用を副作用といいます。程度の差はありますが、あらゆる薬に副作用は存在します。

腹水（ふくすい）

腹腔内に認める液体のことです。がんなどの疾患で多量にたまると、おなかが張った感じがしたり、腹部が膨れてくることなどがあります。

腹膜播種（ふくまくはしゅ）

がん細胞が臓器の壁を突き破って、種がまかれるように腹膜にバラバラと広がることを腹膜播種といいます。

【ま行】

未承認薬（みしょうにんやく）

日本人や日本の医療環境において効果があるか、安全であるかまだ科学的に確認がされていないために厚生労働省から承認されていない薬剤のことをいいます。

【や行】

癒着（ゆちゃく）

本来はくっついていないところが炎症などのためにくっついてしまうことです。

予後（よご）

病気や治療などについての、医学的な見通しのことをいいます。

【ら行】

リンパ節（りんぱせつ）

身体全体にある免疫器官の1つで、全身の組織から集まったリンパ液が流れるリンパ管の途中にあります。細菌、ウイルス、がん細胞などがなにかをチェックし、免疫機能を発動する「関所」のような役割を持ちます。

リンパ浮腫（りんぱふしゅ）

がんの治療の影響で、治療部位に近い腕や脚などの皮膚の下にリンパ液がたまってむくんだ状態のことをいいます。リンパ節の切除や放射線治療、一部の薬物療法などによって、リンパ液の流れが悪くなることで起こります。

レジメン（れじめん）

薬物療法を行う上で、薬剤の用量や用法、治療期間を明記した治療計画のことをいいます。

レスパイトケア（れすぱいとけあ）

介護を要する高齢者や障害者を、一時的に預かって家族の負担を軽くする援助やサービスのことをいいます。

